

首都圏増田会

だより ②5

2010.6

首都圏増田会

事務局：〒211-0007

川崎市中原区上丸子天神町380

電話 044-722-0263 (細野)

時代は去り、愛郷の念 忘れがたし、

癒しの ふるさとは "首都圏増田会"



中七日町通り

今年もやります、地酒、平鹿リンゴ、田舎のガッコ、芋の子汁を準備して。

田舎の物産を、沢山車に詰めて皆が待つ東上野へやって来る。

25周年の集いに、友人知人を誘い参加して下さい。

地酒・田舎の味覚に舌鼓、仲間と会い明日への活力にする、増田会へ。

心をこめて、晩秋の一日を、おもてなします。

皆に愛される首都圏増田会をめざして仲間と、役員一同で待っています。

11月21日(日)首都圏増田会へ。

内蔵の豪華さに感嘆の声 第4回「増田蔵の日」



内蔵の所有者などで構成する「増田蔵の会（佐々木俊一会長）」主催の第4回「増田蔵の日」が10月3、4日の両日、中七日町通りで開催されました。

これは、文化遺産である増田の内蔵を広く公開し、その保存と活用を目的に行われたもので、普段は見ることでできない内蔵を含めた18棟を一般公開。県内外から2日間で約3千7百人の見学者が訪れました。

それぞれの蔵では、歌舞伎

などを題材にしたキルティング仕様の押し絵や冠婚葬祭用のお膳などを展示。所有者や観光ガイドが蔵の構造や歴史を説明した後、見学者をお茶やお菓子でもてなしました。

また、旧勇駒酒造の蔵では、増田小学校の児童が蔵について調べた内容を歌にした「増田の蔵」の合唱や大正琴などによる「蔵の日ライブ」が行われたほか、福嶋のサイサイ囃子、店先での果物や漬物などの販売、臨時朝市にぎわいました。

静岡県から訪れたツアー客は「梁の太さに驚きました。所有者の方は維持管理が大変ですね。見学する時間が短かったので、来年はゆっくり見に来たい。」と興奮気味に話してくれました。（平成21年10月15日号市報よこて）



▲立派な梁に見入る見学者たち（多三郎家）

増田の町並み保存に助成 ■東日本鉄道財団の「地方文化事業支援」

増田地区歴史的建造物整備および保存事業が、東日本鉄道財団の地方文化事業支援を受けることとなり、7月13日に増田ふれあいプラザで承認書の授与が行われました。

この事業支援は、地方文化の振興を目的に、同財団が地域の文化遺産や伝統行事などの保全、継承の取り組みに助

成するもの。平成5年から実施され、県内では5件目となります。

今年度の助成金は500万円。内蔵や木造建築を活用して行われている「蔵の日」のイベントや歴史的景観を維持し、活性化の拠点として後世に継承できるよう、内蔵が数多く残る中七日町通り沿いの主屋外観補修に活用されます。

同財団の石川晃事業部長から承認書を受け取った五十嵐市長は「財団のお目になったことをうれしく思います。増田の歴史的町並みを保存する取り組みを、末永く支援してほしい」とお礼を述べました。（平成21年8月1日号市報よこて）



▲対象となる七日町通り沿い

りんごのイベント 盛りだくさん

■第44回りんごまつり



▲りんごの皮むきに挑戦！

増田地域恒例の「りんごまつり」が10月11日、真人公園を会場に開催されました。今年で44回を数える「ミスりんごコンテスト」には、市内外から14人が出場。かすりはんてんとおこし姿でステージに登場し、審査員の質問に答えた後、一人ひとりが笑顔で増田特産のりんごをPRしました。このほか、りんご皮むき競争、りんごの唄コンクール、お楽しみ抽選会、JA秋田ふるさとや青物横丁直売グループによるりんごの試食販売、婦人会が準備した芋の汁の販売が行われ、終日にぎわいました。（平成21年11月1日号市報よこて）

広げよう新たな保存継承活動の輪

■盆踊りサミット

1月17日、盆踊り保存継承活動のネットワークの構築と後継者育成を目的に、増田ふれあいプラザで「秋田盆おどりサミットin増田」が開催されました。ステージでは、増田盆おどりや本館盆踊り（美郷町）、岩崎盆踊り（湯沢）羽後高校郷土芸能部の西馬音内盆踊りが、お囃子と軽妙な地口に合わせて披露されました。また、浜美枝氏による基調講演や保存会代表者らによるパネルディスカッションなども行われ、保存継承活動の大切さと郷土愛を育む盆踊りのよさを再確認するサミットとなりました。（平成22年2月1日号市報よこて）



受け継がれる民俗芸能を披露

■民俗芸能フェスティバル



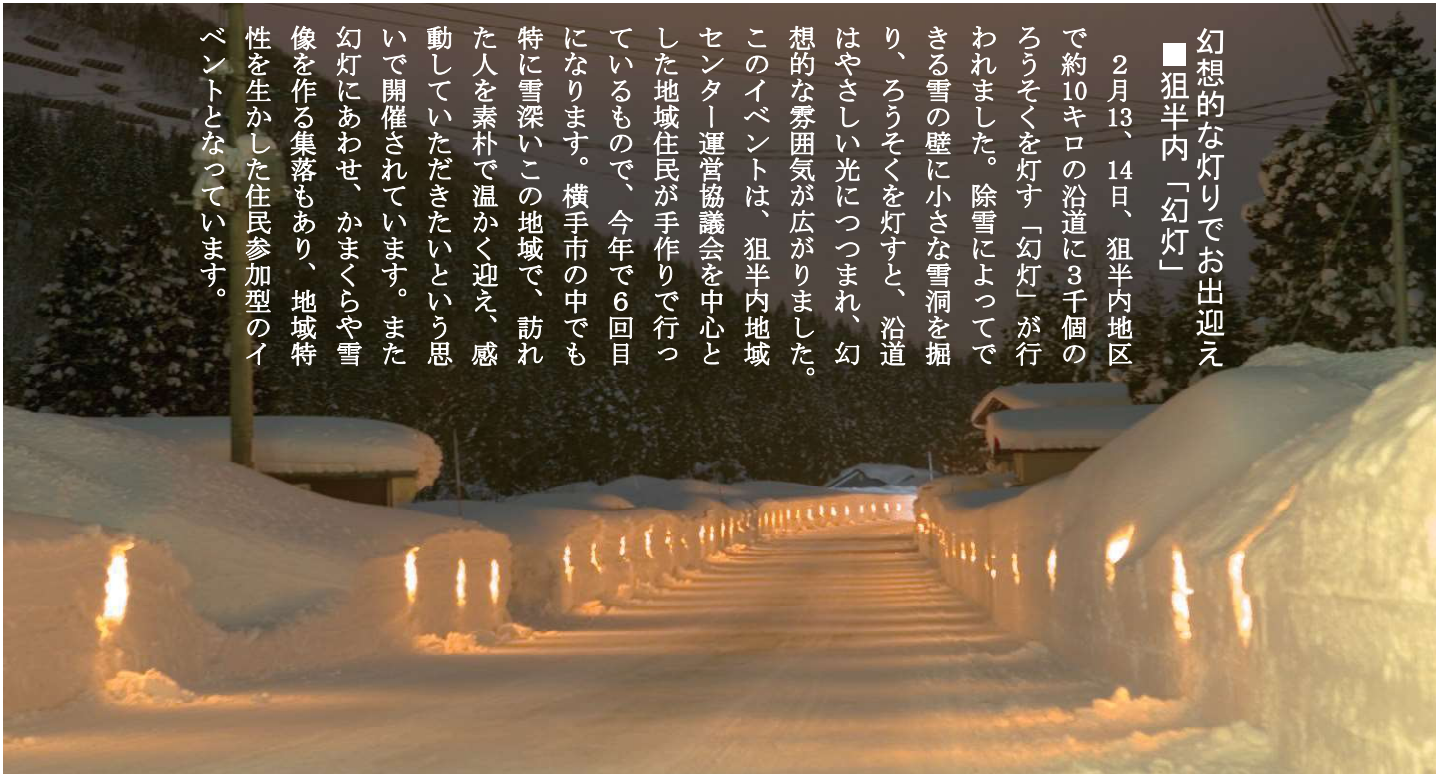
横手市増田民俗芸能フェスティバルが11月15日、増田ふれあいプラザで開催されました。長い間、地域の人々により伝承されてきた県内の民俗芸能を集め、伝統芸能の伝承と保存、伝統芸能に対する理解を高めることを目的に、増田地域センター運営協議会が主催し今年で7回目の開催。ステージでは、増田地域に伝わる八木番楽や福嶋サイサイ囃子をはじめ、仁井田番楽（十文字）、願人踊（八郎潟町）関口ささら舞（湯沢市）など7団体が次々に伝統芸能を披露し会場を盛り上げました。（平成21年12月1日号市報よこて）



▲岩魚を釣って食べる体験をした子どもたち

■狙半内地域センター（旧東小学校）が生まれ変わりました！

これまで地域の拠点として利用されてきた狙半内地域センターが、宿泊体験交流学习施設を併設し、平成25年度から本格的に展開される「子ども農山漁交流プロジェクト」の横手市の受け入れ拠点として整備されました。このプロジェクトは、林業や農作業などの体験を通して子どもたちの学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、規範意識などを育む教育活動として、総務省、文部科学省、農林水産省が連携して行うものです。子どもたちの新たな一面をひきだし、成長を促す効果が期待されています。



【友愛と協力で更なる発展を目指す増田会総会】

11月15日東上野（御徒町）の「ラ・ベルオーラム」で開かれまし
た。今年是好天に恵まれ大勢の参加者を迎える事が出来ました。

総会には首都圏在住の増田出身者をはじめ、市関係者、ふるさと交
流者など当日総勢200有余名の皆様が参加してください賑やかであ
った。

佐藤会長の挨拶に、真に同郷人の友愛の絆を強く持つてふるさとの
味を心ゆくまで堪能しながら交流を深め、楽しんでもらいたいという
心に沁みる挨拶がありました。

続いて来賓客の皆様から地元故郷の現状報告や故郷の心温まる懐か
しいお言葉や、会を運営するに当たって、会長はじめ役員諸氏に知恵
と使命感に夢を託し、真面目で意欲的に取り組んでいる姿に心を打た
れたというお褒めの言葉や励ましの言葉を数々賜りました。

総会の報告事項・審議事項も事なく終了し、懇親会では増田町から
持参した地酒やりんご等が振舞われ、参加者たちは故郷に心を寄せな
がら、楽しんでおりました。やがて宴もたけなわになり、民謡や舞、
カラオケなどが次々と披露され盛り上がりました。

今回は三筋の糸に乗せて奏でる大人の子守唄、三味線の演奏は無か
ったが、演武の旅笠女やくざ姿が、一段と宴会に華を添えてくれまし
た。限られた時間の中で参加者一人一人が故郷感に対する思いは異な
っているだろうが、故郷は心の支えであり誰もが、こよなく望郷心に
駆り立てられるもので、故郷の発展や住民の幸を願う気持ちりが会場に
みなぎっているやに見えました。

最後に総会準備のために頑張ってくれた郷土料理研究会、物産流通
センター、関係者の皆様ご協力有難うございました。参加者の皆さん
は来年の25周年の再会を誓い合いました。

（高栄記）

第24回総会 好天に恵まれ大盛況



▲佐藤会長のあいさつ



▲大盛況の会場



▲『ふるさと』を全員で合唱

会員の声

首都圏増田会総会に
参加して



佐藤 誠さん
千葉県在住・真人出身

今回の増田会総会に出席し昨年、
一昨年と比較し同年齢の仲間の数が
減少しているのが気になった、私も
73歳仲間も高齢者になったのも一因
だろうことは理解できるが、それだ
けではなさそうに思う、現に一月前
に一緒に旅行した仲間の何人かは出
席の意向であったにも拘らず、姿を
見せなかった。首都圏増田会の魅力
とは何だろうと考えても見た、私の
場合、弟が増田会の会長でもあり
「兄貴頼むよ」の一言で兄弟として
の義理立ても有るのかも知れない
が。遅れて参加した友人が「あの漬
物が無い、あれを買いに来たのに、
買ったのか」と私がひとつ買ったも
のを譲ってほしい意向であったが私
も目的のひとつであり、遅れてきた
からだと話をお仕舞いにした。まだ
何か参加する前に期待したものへの
達成感が不足している、何だろうと
考えているうちにパーティそのもの
が日常我々の実施しているパーティ
とあまり差の無いことに気づいた。
増田会独特の雰囲気、なんだろう、
そうだ匂いだ。パーティ会場に着い
た途端に匂っていた「納豆汁の匂い
が無い」現代の故郷の盛年層は納豆



宮本さだ子さん
茨城県在住・小栗山出身

遠い昔の思い出

私は、ここ数年、近くに住む姉に
誘われ、首都圏増田会に毎回参加さ
せていただいております。

姉は、この日が来るのを大変楽し
みにしております。何より物産セン
ターにての買い物を持ち、家を出
る時には大きな買い物袋を毎回持参
します。会場に着くなり、あれこれ
と沢山のお土産を買い込み、持ち帰
りに一苦労しております。

今年も相変わらずの懐かしい顔ぶ
れに、1年間無事だったことをお互
いに喜び合い話が弾みました。特に
姉は、今年驚いた事がありました。
それは、今から40数年も前に、数ヶ



帰郷
首都圏増田会会長 佐藤 章
東京都在住・真人出身

3月中旬、ふるさと交流会が山内の鶴ヶ池温泉で行われ帰郷
した。3月は「獅子のようにやってくる」英国のことわざのよ
うな春の嵐に足止めを食らうのではと心配したが、それほどで
もなくホッとした。しかし秋田に向かうこまちを吹雪が迎え
、故郷は雪国であることを再認識した。交流会では様々な話で
盛り上がったが、どの会も会員の確保とどうしても停滞気味な
会活動が悩みごとであった。いろいろ考えさせられた一日であ
った。

翌日はゆっくりした時を過ごした。前日には考えられないほ
どの上天気であった。山内から向かう車窓から見た鳥海山は、
全身真っ白に雪化粧を施し、その美しい姿は近づくがたい貴婦
人のような目映い感じがした。その後久しぶりにさわらびを訪
れた。その道すがらに見えた奥羽山脈も、青い空と白い峰との
コントラストが見事であり、しばし見とれた。連想する田舎の
面影は、私どもの故郷にある。大事にしたい。



高橋 誠
増田町在住

「帰りなんいざ 田園まさにあれなんとす なんぞ帰らざる」
（陶淵明）
新横手市となってから5年ほど過ぎ、秋田県も69市町村が25
にまで収斂されたが、一向に過疎化や少子高齢化の進行が止ま
らない。一方モノがあふれ生活環境は高度化し、豊かな時代と
なった。しかし、増田で最大1万3千人余の人口が8千人を割
るのは時間の問題である。人が減り、数十年先に消滅寸前にあ
る集落さえある。地域再生への取り組みはまったなしである。
旧小学校単位に設置し活動頂いている4つの地域センターの役
割に期待している。

還暦を迎える頃になると人生を「人間万事塞翁が馬」という
心境になるのだそうだが、ゴルフと同じで力を抜かなければな
らないところで、変に肩に力が入り頑張り過ぎたことでした
らに悩んだり突っ走ったり、ダッチロールしながらもお陰様で
何とか区長の任期を昨年の12月に終えることができた。ご支援
ご協力に心から感謝申し上げますとともに、首都圏増田会の益々
の発展、皆様方のご活躍を祈念し、一層の故郷へのご支援をお
願い申し上げます。

多謝

元増田町区長



佐藤 昭子さん
ふるさと交流者・増田町在住

「ふるさと首都圏増田会」に
参加して

第24回首都圏増田会に、この度、
増田町からスタッフとして私達6名
のお母さん達が参加させて頂き、お
世話になりました。私達、縁あって
増田町の住人となって早40余年の月

日を重ねてきた：おばあちゃん達で
す。首都圏増田会に出席して本当に
感銘致しました。
「ふる里会」なが年、都会でお暮
らしの方々とは地方との交流・親睦を
温め合う催しを、24年も続いていら
つしやる事、他県から来た私にはふ
る里がなつかしく、幼なじみ、同期
や隣人、いろんな方々と再会する姿
を拝見して、我が身に置き換えて故
郷を想い出した瞬間でした。

スタッフのお母さん方もそれぞれ
の想いに馳せていました。
増田町の懐かしい味「いものこ
汁」大好評でした、よかったねって
：スタッフ一同安堵いたしました。
：今、秋田県でも奨励している「地
産・地消」の一環として「柿の味噌
漬」・「なす漬」都会ではなかなか味
わえない、田舎の味覚、味わって頂
けたかと思いました。

ふるさととは遠くにありて思うもの
そして悲しくうたうもの
よしや
うらぶれて異土の乞食となるとも
かえるところにあるまじや
ひとり都の夕暮れに
ふるさと思ひ涙ぐむ
その心もて
遠き都に帰らばや
遠き都に帰らばや

室生 犀星
詩集より

掲 示 板

首都圏増田会総会

11月21日(日)開催

第25回首都圏増田会総会を下記により開催します。ご友人やお近くの知人の方をお誘い合わせの上、多くの会員の皆さんが参加されるようお願いします。

なお、正式な案内状は、10月に発送する予定です。

◇期日 11月21日(日)正午～

◇場所 ラ・ベルオーラム

(TEL03-3832-0457)

(東京都台東区東上野

=昨年と同じ場所です)

◇会費 8,000円

参加者全員が着席できるように準備しますので、ぜひご来場ください。

◎10月1,2,3日に「横手市ふるさと探訪ツアー」が予定されています。詳しい内容については現在調整中です。(お問い合わせは…地域づくり支援課 TEL 0182-35-2158まで)

平成20年度首都圏増田会収支報告

平成21.11.15現在

首都圏増田会の平成20年度収支決算がまとまりました。その内容は下記のとおりです。

【収入の部】

項 目	金 額 (円)	説 明
前年度繰越金	626,603	
年 会 費	397,500	2,000円/年(手数料差引後)
総 会 費	720,000	8,000円×90人
総会ご祝儀等	344,000	総会祝儀(320,000円) 広告収入(24,000円)
横手市補助金	270,000	首都圏増田会補助金
預 金 利 子	307	
合 計	2,358,410	

【支出の部】

項 目	金 額 (円)	説 明
総 会 費	1,162,447	会場料、宴会費、他
通 信 費	62,900	総会案内状、増田会だより
会 議 費	125,996	役員会 4回
在京ふるさと会	192,000	在京ふるさと会 出席 横手市ふるさと連絡協議会
慶 弔 費	20,000	
広 告 費	60,000	増田の花火協賛金 ほか
事 務 費	10,320	事務消耗品他
振込み手数料	1,890	
合 計	1,635,553	
収支差引残金	722,857円	は平成21年度へ繰越

大事なお知らせ

お願い(連絡)

市町村合併後、市当局からの支援金が大幅に削減されてしまいました。つきましては増田会として、やむをえず次のようにしました。

○過去5年間、会費が未納の方

総会の案内及び増田会だよりの郵送を中止。ただし、総会への参加は構いませんのでご友人をお誘い合わせの上、一人でも多くの方々の参加を期待しています。皆様のご理解の程をお願い申し上げます。

募 集

○原稿募集

広報部では「会員の声」の原稿を募集しています。400字詰め原稿用紙1枚程度に、故郷への思いや思い出等をテーマに自由に文章をお書きください。

提出先：広報部長 阿部 照子

○広告募集

総会資料に掲載する広告を募集しています。1口(名刺判)3,000円となります。希望される方は伝票の通信欄にご記入ください。

会費の納入はお早めに

当会の事業・運営費等は皆さんの会費によって賄われていますが、最近会費の納入が遅れたり、未納となる会員の方が出ています。健全会計維持のためにも、納入はお早めをお願いします。

過去5年間未納の方には次回より案内状・たより等の送付はしないこととします。なお、連絡先不明で案内等が返送されるケースが数多くあります。転居された方をご存じの方は増田地域局・地域振興課(秋田県横手市増田町増田字土肥館173番地 TEL0182-45-5510)へお知らせください。

◆会 費 年額2,000円

◆納入期限 平成22年8月31日

◆納入方法 別添振込票

※必要な事項をご記入の上、お早めにお近くの郵便局から送金してください。手数料は無料です。

振込票の通信欄は、あなたの近況、会員紹介、増田会に対する意見などを、自由に記入ください。